

授業科目 日常生活援助論Ⅲ	区分・教育内容 専門分野Ⅰ 基礎看護学				
授業担当者 日野由樹子	開講時期 前期	単位 1 単位	時間数 30 時間		
授業の目的 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する 授業の目標 1. 栄養と食事の意義を理解し、適切な援助の方法を習得する 2. 排泄の意義を理解し、適切な援助の方法を習得する					
授業概要 私たちは、常に生命を維持するために必要な物質を摂取し、それを消化・吸収して体内の不要な代謝産物や有害物質を体外に排泄している。すなわち、食事・排泄は生命維持のためには欠かすことのできない生理的・基本的欲求である。しかし、健康障害によりこの基本的欲求が満たせなくなる事も多い。このような場合どのような看護支援をしたらよいか、具体的方法について学ぶ。 排泄の介助は、対象にとって羞恥心を伴うものであり自立と個別性を重視する技術である。演習を通して対象の心理を考え、細かな配慮ができるようになってほしい。 授業計画(進め方) <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 〈食事を整える援助〉 1 回目 栄養と食生活の意義 栄養と食事に関する基礎知識 2 回目 食事の援助 3 回目 非経口的栄養療法 4 回目 食事指導 (GW) 5・6 回目 食事の援助の実際 (演習) 経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際 (モデル人形での演習) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 〈排泄を整える援助〉 7 回目 排泄の意義・排泄に関する基礎知識 8 回目 排泄の援助 9 回目 浣腸の意義と種類 10・11 回目 浣腸・排便の実際 (演習) (モデル人形での演習) 12 回目 導尿の意義 13 回目 導尿の種類と管理 14・15 回目 持続的導尿の実際 (演習) (モデル人形での演習) </td> </tr> </table>				〈食事を整える援助〉 1 回目 栄養と食生活の意義 栄養と食事に関する基礎知識 2 回目 食事の援助 3 回目 非経口的栄養療法 4 回目 食事指導 (GW) 5・6 回目 食事の援助の実際 (演習) 経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際 (モデル人形での演習)	〈排泄を整える援助〉 7 回目 排泄の意義・排泄に関する基礎知識 8 回目 排泄の援助 9 回目 浣腸の意義と種類 10・11 回目 浣腸・排便の実際 (演習) (モデル人形での演習) 12 回目 導尿の意義 13 回目 導尿の種類と管理 14・15 回目 持続的導尿の実際 (演習) (モデル人形での演習)
〈食事を整える援助〉 1 回目 栄養と食生活の意義 栄養と食事に関する基礎知識 2 回目 食事の援助 3 回目 非経口的栄養療法 4 回目 食事指導 (GW) 5・6 回目 食事の援助の実際 (演習) 経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際 (モデル人形での演習)	〈排泄を整える援助〉 7 回目 排泄の意義・排泄に関する基礎知識 8 回目 排泄の援助 9 回目 浣腸の意義と種類 10・11 回目 浣腸・排便の実際 (演習) (モデル人形での演習) 12 回目 導尿の意義 13 回目 導尿の種類と管理 14・15 回目 持続的導尿の実際 (演習) (モデル人形での演習)				
テキスト ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス 第4版 学研 看護がみえる Vol.1.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア					
参考書・指定図書 看護がみえる Vol.1.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる Vol.1.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア					
評価の方法 筆記試験と演習態度を合わせて評価する					